

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	サモナー	Lv.1:	サモナー	性別	女
称号クラス				年齢	14
種族	ヒューリン			境遇	平凡
出自 (効果)	英雄			目標	無目的

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	9	9	8	17	11	13	9
ボーナス	3	3	2	5	3	4	3
クラス修正	0	0	0	2	1	2	1
他修正							
能力値	3	3	2	7	4	6	4

HP	35
MP	55
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	マジックスタッフ	至近	-1	2	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胴部	ローブ					2			
補助									
装身具									
能力値			3	0	2	0	6	6	8
スキル									
その他									
総計(右)			2	2					
総計(左)					2	3	6	6	8
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	7	2		9	+ 3 d
アイテム鑑定	7	2		9	+ 2 d
魔術判定	7	2	1	10	+ 3 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
使い魔	
冒険者セット	
ベルトポーチ	
MPポーション*	
HPポーション	

現在重量: 11
 最大重量: 11
 所持金: 1415
 預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オールラウンド	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: キャラ作成時に任意の3つの能力基本値+1								
マジシャンズマイト	4	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
コンセントレイション	1		パッシヴ		自身			
効果: 魔術判定に+1d								
サモン: フェンリル	1	8	メイン	20m	範囲 (選択)	魔術判定		
効果: 対象に無属性の魔法攻撃を行う。ダメージロールは2d、ダメージを与えた場合威圧を与える。								
ファミリア	1		パッシヴ					
効果: 使い魔を[SL]個取得する。								
フォースプリンガー	2		パッシヴ		自身			
効果: 無属性魔法の威力+SL*4								
ギフト	1	-	判定の直前	-	自身	自動		
効果: シナリオ一回。判定ダイス+2d								
アニマルパクト	1	-	マイナー	-	自身	自動		
効果: シナリオ一回。メインで使うスキルを対象:選択、射程:視界に変更。サモナーのスキルのみ。								
モンスターロア	★		パッシヴ		自身			
効果: エネミー識別の時に+1dする								
オピニオン	★		パッシヴ		自身			
効果: 説得や交渉などの精神判定に+1dする。								
アニマルエンパシー	★		パッシヴ		自身			
効果: 分類:動物、魔獣のエネミーと話せる								
トレーニング:知力	★		パッシヴ		自身			
効果: 知力基本値+3								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

父や兄を慕う、おとなしい女の子。少し人見知りなところがある。礼儀正しいがちょっとお転婆。使い魔は白い子狼のシュネー。もふもふしてる。小さいからかほとんどの人には犬だと思われている。

母親は幼いころに亡くしている。母親の記憶はほとんどないが、父や兄からよく似ているといわれている。家族からは未っ子としてかわいがられてきたため、年下には少々お姉さんぶりがとところがある。母親は体が弱く、そんな母によく似ているためかちょっと過保護に育てられた。そんな扱いを嫌ってこっそりいろんなところに行っているが、一人で危ないところに行かないという約束はしっかり守っている。

父親が当たり障りない部分のみだが昔のことを話してくれ、その話を聞くのが好き。過去は特にいいこともなければ悪いこともなかった、サモナーの技術を学んだこと以外は良くも悪くも平凡に過ごしてきた。なお、若干ファザコンの気がある模様。兄も好きだが父親は別格。サモナーの技術を教えてくれたのは本人曰く「大きくなってまっしろでふわふわした狼さん」らしい。数年前から会えなくなったが、別れる前に「強くなって遊びにおいで」と言われたらしい。

冒険者になったものの特に目的はない。しいて言うなら多少の父親へのあこがれと、まっしろな狼さんを探して遊びに行きたいと思っているくらいである。